



平成27年度

学校評価報告書

平成28年3月29日作成

二七〇町学校評価委員会

～ 目次 ～

○	はじめに	P 1
1	平成27年度の委員会活動の状況	P 2
2	各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点	P 3
3	各学校・幼児センターにおける評価結果	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 5
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 7
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 8
	【No.4】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 10
	【No.5】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 12
	【No.6】共通重点目標 服務管理の徹底	P 13
4	ニセコ町全体としての評価のまとめ	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 15
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 16
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 17
	【No.4】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 17
	【No.5】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 18
	【No.6】共通重点目標 服務管理の徹底	P 19
5	今後の取組について	P 19
6	ニセコ町学校評価委員会 構成委員	P 20

◎ はじめに

ニセコ町教育委員会では、平成24年度に文部科学省の委託研究事業「実効性の高い学校評価・情報提供の充実・改善に向けた取組に関する事業」を受託し、平成25年3月に「ニセコ町学校評価ガイドライン」を作成しました。

平成25年度からは、このガイドラインに基づいたニセコ町学校評価委員会を組織立てし、幼児センター・各小中高等学校の学校評価の取組みを進め、3年目を迎えました。

ニセコ町の学校評価の取組みの特徴は、幼児センターからニセコ高校までの子どもたちの成長過程について、設定した共通項目について同じ目線で捉えながら、子どもたちの成長を考えていくことです。

学校教育の業務は多岐に渡っておりますが、その中から共通の重点目標とそれに関わる共通の評価の観点を設定し、幼児センターからニセコ高校まで連携した学校評価を模索しながら進めてきました。

本報告書は、平成27年度の各学校の評価結果をもとに、ニセコ町全体の評価結果としてまとめたものです。

1 平成27年度の委員会活動の状況

① 第1回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成27年5月28日（木）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 委員長及び副委員長の選出
 - ・ 各学校・幼児センターにおける本年度の学校評価について
 - ・ 共通重点目標の設定について
 - ・ 本年度の開催スケジュール

② 第2回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成27年7月13日（月）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る各学校・幼児センターの指標について
 - ・ 共通の評価の観点的作成について

③ ニセコ町学校評価委員会第1回作業部会

- 日程 平成27年8月5日（水）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る評価の観点的について。
 - ・ 評価の観点的に基づく共通のアンケート項目について

- ④ ニセコ町学校評価委員会第2回作業部会
 - 日程 平成27年8月18日(火)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る評価の観点及び共通アンケート項目について

- ⑤ 第3回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成27年10月2日(金)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る共通の評価の観点とアンケート項目について
・共通重点目標に係る評定結果の付け方について
・ニセコ町学校評価委員会の報告書様式について

- ⑥ 第4回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成27年12月10日(木)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・各学校・幼児センターの学校評価の取組状況について(情報交流)

- ⑦ 第5回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成28年3月17日(木)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果及びニセコ町としての評価結果のまとめについて

2 各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点

ニセコ町学校評価委員会及び同委員会作業部会において、ニセコ町の幼児センターからニセコ高校まで全部の学校が同じ視点で評価を行うことから、ニセコ町学校評価ガイドラインから平成27年度の共通の重点目標、共通の評価の観点、共通のアンケート項目を設定しました。

本年度は、共通重点目標の絞込んだうえで、取組み指標から成果指標へと指標の充実に力点を置くこととし、6項目(昨年度比で2項目減)の共通重点目標を設定しました。

共通の評価の観点及びアンケート項目

項目	共通重点目標	共通の評価の観点	アンケート項目		
			教職員向け	児童生徒向け	保護者向け
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	【No.1】 「分かる授業」を目指した授業改善の推進(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	①授業改善のための校内研修の充実 ②効果的な指導方法や指導形態の工夫 ③教育課程改善に向けての取組 ④児童生徒アンケートの結果	①校内研修の充実により分かる授業づくりが進められている。 ②ICT機器活用等、効果的な指導方法や指導形態が工夫されている。 ③全教育活動を通じて、組織的な取り組みが進められている。 ④児童生徒の評価を生かして授業改善を進めている。	①学校での学習は、よくわかる。	学校は、分かりやすい授業をめざして教育活動に取り組んでいる。
	【No.2】 特別支援教育の充実	①配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実 ②個別の教育支援、指導計画の作成・実施 ③特別支援学級への校内支援体制の充実 ④特別支援教育への保護者理解・児童生徒相互理解	①特別支援教育についての研修に積極的に取組み、授業や教育課程の改善が図られている。 ②個別の指導計画、教育支援計画が整備され、個に応じた指導が行われている。 ③支援が必要な子に対して、周囲が認めていける集団作りが行われている。		学校は、特別支援教育の充実に努めている。
	【No.3】 読書活動の推進	①朝読書(一斉読書)の取組状況 ②図書館利用、読書活動の状況 ③「あそぶっく」との連携	①児童生徒の読書習慣の確立に向けた取組がなされている。 ②学校図書館やあそぶっくは、利用されている。	①本を読むことが、好きだ。 ②学校図書館やあそぶっくを利用している。	①子どもは、家庭で本を読んでいる。 ②子どもは、あそぶっくや学校図書館を利用している。
	【No.4】 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	①児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有 ②いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進 ③いじめに関する情報の組織的な共有	①学校は教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築く教育活動を行っている。 ②学校は、アンケートや相談活動などの実態把握を基にして、組織的な情報共有と生徒指導を行っている。	自分の様々な悩みや相談ごとを聞いてくれる人が身近にいる。	①学校は教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築く教育活動を行っている。 ②学校は、いじめや不登校についてアンケートや相談活動などの実態把握を行っている。 ③いじめや不登校など困った時には、学校に相談できる。
センター・家庭、地域の連携	【No.5】 外部人材の積極的活用	地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用	地域、保護者など外部人材を取り入れ、良さを生かした活動がなされている。	講師の先生(学校外から来てくれた先生)との授業が自分にとって役立った。	子どもは、教師以外のさまざまな人との交流を通して、地域の良さを知り視野を広げている。
幼児学校運営センター	【No.6】 サービス管理の徹底	①教職員のサービス規律の遵守 ②コンプライアンスに関する研修の実施	①サービス規律の厳正な保持に向けて自覚をもった行動をしている。 ②不祥事根絶に向けての研修に校内で組織的に取り組んでいる。		

3 各学校・幼児センターにおける評価結果

平成27年度における共通の重点目標、評価の観点、アンケート項目により、各学校・幼児センターで学校評価の集計を行い、各学校・幼児センターごとの共通項目の評価結果を作成しました。

各学校・幼児センターの取組に対する評定結果として「A」「B」「C」「D」の4段階評価をつけています。

【No.1】 ・共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

- ・共通の評価の観点
 - ① 授業改善のための校内研修の充実
 - ② 効果的な指導方法や指導形態の工夫
 - ③ 教育課程改善に向けての取組
 - ④ 児童生徒アンケートの結果

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の遊びのコーナーを子どもの興味や発達に合わせて環境を構成し、見直すことで遊びの充実につながった。 ・保護者との話し合いを密に持つことで人信頼関係を築けるよう努めた。 ・意志疎通の難しさを感じた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達自身が、遊びを試し、工夫する事が出来るような環境を構成していく。 ・信頼関係を築いていけるよう、子どもの姿をしっかりと見取り伝えていけるように努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と子どもの様子について共通理解するには個々の対応も大切であるが、子どもの発達など全体的に発信していくことも必要である。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修に積極的に取り組み、学習指導の改善・充実が図られている。(研究授業9回、指導主事訪問4回) ・パソコンや実物投影機などのICT機器の有効活用を有効に活用している。 ・複数体制による指導は、授業がわかりやすいと子どもたちの評価が高い。(TTによる3~6年生の算数、退職人材による2,3年生国語、算数) ・教育課程は、地域や児童の実態を考慮し、適切に編成されている。特に学校行事では、子どもの成長が感じられると保護者の評価は非常に高い。 ・児童の評価を生かした授業改善の取組みに課題がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も校内研修に積極的に取り組み、授業の改善・充実を図る。全道特別活動研究大会、地域連携研修会では、先進的な取り組みを学ぶ機会として、学んだことを自校の実践に生かす。 ・ICT機器の有効的な活用の仕方についての交流を職員間で行っていく。 ・複数体制による指導は、打ち合わせをしっかりと行い、さらなる効果的指導につなげていく。 ・今後も地域や児童の実態を考慮しながら、特色があり、適切な教育課程の編成・実施に努める。 ・児童の評価は指導の結果であることをしっかりと受け止め、細かく結果を分析して授業改善につなげていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果では、発表するのが苦手な子が多い。なぜ多いのか?どうして発表が苦手なのか?子どもたちに聞いてみることもよいと思う。そして、手立てを立てて指導していけば改善されていくのではないか。 ・人間関係づくりも含めて、学級経営をしっかりとやってほしい。 ・TTや退職人材、特別支援講師などによる複数体制の指導がとてもよい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係の提案に基づき協力体制のもとで研修が進められている。 ・ 同時間接指導を取り入れた複式授業の「近藤スタンダード」の定着に向けて、授業交流を核とした研修を進めた。 	A	<p>校内での研究授業はもとより、各種研修会等に積極的に参加し、全校の取り組みとして授業改善を進めるよう努める。</p> <p>学習規律とノート指導については組織的に取り組み、児童の考える時間を保証するなど、複式授業の定型化を進めていく。</p>	A	<p>勉強が楽しい、よくわかると感じている児童が多いことは、学校としての取り組みが成果として表れていると言える。今後も主体的に学習時取り組む児童の育成に向けて努力を続けてほしい。</p>
ニセコ 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教えること」「考えること」を意図的に整理し生徒が主体的に学ぶ授業の構築 ・ 学習課題の明確化と提示の工夫・指導言の工夫による思考の活性化 ・ 問題解決、課題追究時における自力解決の時間確保 ・ グループ等による学び合いの重視・学習内容の定着や活用力を育成する場の設定 ・ 補充学習・自主的学習習慣の確立ための手立て（定期テスト前・長期休業中教科相談の活用等）を充実させた。生徒アンケートによる肯定的回答は80%であるが、各種学力調査の到達状況は70%を切っており、保護者アンケートではそれを反映して70%となっている。 	B	<p>研修による授業改善は進んできているが、生徒の主体的な学びを確立するための取組を継続して推進し家庭学習の充実も図る。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人一人の実態に応じた家庭学習や宿題の内容や量の工夫により、学力の向上を図ることもできると思う。 ・ 「学習のすすめ」の生徒の活用状況を把握し、生徒が自主的に学習を進められるよう、改善を図って欲しい。
ニセコ 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の公開授業に併せて、教職員の互見授業を実施した。 ・ 授業改善に向けた観点別評価のあり方についての校内研修を実施し、指導法について意見交換した。 ・ 学校視察を実施し、わかりやすい授業の指導方法について教員研修を行った。 ・ すべての授業において授業評価を実施し、教職員で結果を共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の保護者の参加が少ないことから、実施時期や方法を改善する必要がある。 ・ 計画的継続的に、学校視察を行い、優れた授業技術を習得する機会をつくる。 ・ 校外の研修後の報告会を実施し、学校全体で共有できる体制づくりを行う。 ・ 「何を教えるか」ではなく、「どのような能力を身につけさせるか」を考えて教育活動に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会で生きていくための最低限の基礎学力を身につけさせるために、自ら学ぶ力を引き出す授業を心がけることが大切だと思う。 ・ 授業の学習内容がわかるだけではなく、積極的に人前で発表する力を養うことも今後はさらに重要になってくと思う。

【No. 2】 ・ 共通重点目標 特別支援教育の充実

・ 共通の評価の観点

- ① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実
- ② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施
- ③ 特別支援学級への校内支援体制の充実
- ④ 特別支援教育への保護者理解

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師や専門員との連携を取りながら保護者との情報の共有が出来るよう努めた。 ・保護者への支援の理解は難しかった。 ・各学校の先生に来ていただき、センターでの様子を伝える事が出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連携を継続して行い、よりよい支援のあり方について学んでいく。 ・保護者に理解してもらえるよう努める。 ・定期的にセンターでの様子を参観してもらえるように努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携を取りながら取り組んでいるので良い。町で作ったパンフレットを活用し幼児センター向けに編集して発行しても良いのではないか。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・しりべし学園分校のパートナーティーチャー、スクールカウンセラー訪問を実施し、特別支援学級児童や通常学級の特別に支援が必要な児童についての話し合いを持ち、助言を受けた。 ・特別支援学級担当は週に1回合同の打ち合わせを持つとともに、後志教育研修センターや札幌養護学校の研修会に積極的に参加した。 ・特別支援教育リーフレットを配布した。 ・保護者から相談があった場合には、関係機関に早急に連絡を取った。必要な場合には発達検査やカウンセリングを行ってもらった。 ・校内特別支援委員会(月1回)を開催し、支援が必要な児童に対して情報を共有するとともに、支援体制・支援方法を確認した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する知識や技能についての研修を定期的に行っていく。また、特別支援教育に関する研修会に、参加しやすい体制づくりに努める。 ・保護者からの相談事に対しては丁寧に対応し、関係機関との連携が必要な場合には、早急に連絡を取る。 ・しりべし学園分校、スクールカウンセラー、ことばと学びの教室、役場保健福祉課等と連携して、特別支援教育の更なる充実に努める。 ・校内支援委員会を必要に応じて開催し、支援が必要な児童に対しての支援を行っていく。 ・ニセコ小学校での特別支援教育に関する情報を積極的に発信していく。 ・色覚検査を復活させ、ユニバーサルデザインを意識した環境づくりに努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、週1回の担任部会や月1回の校内支援委員会などをやっているので評価できる。 ・特別に支援が必要な児童は少数だが、少人数の児童に対しても支援を継続して行ってほしい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に全体での研修に取り組むことができた。しかし、一人一人に応じた支援については、今後も研修を深めていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長を意図的・計画的に促すことを第一として一人一人の児童のものの考え方やモノの見方を理解したうえで指導に当たれるよう研修を継続していく。 個人カルテの更新と活用を進めることで児童の支援に共通理解を持ってあたる資料としていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級児童の成長を感じることができる。今後も必要な支援を工夫し、保護者との情報共有を大切にしながら取り組んでほしい。他の児童との交流もできるようにしてほしい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘した校内研修実施・生徒の実態や指導の状況にかかわる情報の共有を行った。 ・ケース会議やパートナーティーチャーと連携した指導の改善充実研修と各種会議は指標の回数より多く行い、通常学級在籍の支援を要する生徒の個別の指導計画も作成できた。保護者アンケートでは67%が理解を示しており前回よりも若干数値が上がった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普通学級に在籍する支援を要する生徒が急増していることから、体制作りは急務であり、町と連携を図った人員の配置を要望する必要がある。 ・必要に応じて今後さらに保護者への説明を丁寧に行う。 	A	
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる校内研修会を実施し、生徒個々の対応の仕方について共通理解を図った。 ・月ごとに、生徒情報を共有する会議を行い、教員間の連携強化に努めた。 ・担任を通じて保護者生徒の学校生活の状況を伝え家庭と連携した指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に関する研修会へ積極的に参加し、生徒の支援に関するスキルアップを図る必要がある。 ・スクールカウンセラーによる各教室での観察を継続実施し、生徒個々の指導について助言をもらう。 ・今後も、支援を必要とする生徒が増えてくることが予想されることから、外部講師を招聘した校内研修会を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒も多様化していると聞いている。そのため、生徒一人ひとりに向けた指導を行うため、スクールカウンセラーの活用や外部機関との連携をして学習や生活をサポートして欲しい。

【No. 3】 ・ 共通重点目標 読書活動の推進

・ 共通の評価の観点

- ① 朝読書（一斉読書）の取組状況
- ② 図書館利用、読書活動の状況
- ③ 「あそぶっく」との連携

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、毎日1冊以上の読み聞かせを行った。 ・保護者には、絵本活動が十分に伝わっていなかった。 ・カルタ、ガードゲームなど利用し、会話を楽しめる遊びを用意して取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や季節に合った絵本の読み聞かせを行う。 ・読んだ本をお知らせするなど、絵本の取り組みを理解してもらえるように工夫する。 ・遊びの中で友達との会話を楽しみながら言葉をゆたかになるよう、配慮する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせなど、取り組めているので良いが、その状況が保護者に伝わっていない場面がみられるので、保護者発信の仕方の工夫が必要である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童登校後は、各学級朝読書を実施した。 ・読書に対する保護者の評価は低い、子どもたちは読書を好きなようで、あそぶっくや学校図書室の利用は多い。 ・児童会図書委員会が、定期的な貸し出しや図書室整理を実施した。また、11月を読書月間に設定し、子どもたちの読書活動の充実に努めた。 ・あそぶっくの朝の読み聞かせを、朝は13回、昼は4回実施してもらった。また、図書室の展示や飾り付けの支援を行ってもらった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も朝の活動に読書を取り入れ、落ち着いた状態で1時間目の授業に入れるようにする。読み聞かせは、こどもたちにとって本に親しむ貴重な機会になっている。次年度も引き続き、朝の読み聞かせを実施する。 ・今後も学校図書の貸し出しの機会を増やしたり、読書月間などで新しい取り組みを取り入れたりしながら、子どもたちの読書活動が充実するように努めていく。 ・読み聞かせの時間は、職員朝会をなくし、教師も一緒に参加するようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に読書活動の取り組みを行っているので評価できる。好きな子はほっといても本を読む。そのような子が増えてきているのは評価できる。 ・図書委員会の選書は良い取り組みである。次年度も継続して行ってほしい。 ・読み聞かせは、先生も一緒に聞いているのが大切である。同じ空間にいることが大切だと思う。 ・教室にある本の全てが自由に読むことができる体制になっているのが良い。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に本が好きな児童が多い。 ・曜日を決めての朝読書の取り組みや、児童会学習部の本の紹介活動も効果を上げていた。 ・あそぶっくとの連携による本の読み聞かせを2回実施した。今後、回数を増やすことも検討したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あそぶっくとの連携を深めながら、子どもたちが読書に親しむ機会を創り出し、読書の楽しさを実感させることを大切にしていきたい。読書環境充実のためにも、あそぶっくとの連携を深めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> あそぶっく等との連携を大切にしながら、読書環境を整え子どもたちが本と向き合う機会を充実させてほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月に読書週間と朝読書活動 ・あそぶっくとの連携により、図書室の書架の整理や古い本の廃棄、月一回のオススメ本の展示など、実施し、一年間を通して、昼休みに図書コーナーを多くの生徒が利用できるようにした。 ・読書の時間については、学校以外で毎日読書する生徒が58%で目標の75%にまでは達していない 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を促すイベントを図書委員会を中心として企画させる等して啓発を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な図書の更新で、生徒にとって利用しやすい図書室となっている。修学旅行準備での図書の紹介など、今後も「あそぶっく」との連携を図って欲しい。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を実施していることから、朝読書は実施していない。 ・図書室の利用は限られた生徒のみで、読書の定着至っていない。 ・「あそぶっく」と連携した「立ち寄り図書館」や学校祭での本販売等を3回実施し利用者も増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりを定期的に発行し読書への意欲喚起につなげていきたい。 ・授業での調べ学習等積極的な図書室の活用と図書委員会の啓発活動で効果的な図書館利用を進めたい。 ・「あそぶっく」と連携をさらに継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読書をすることで「読み解く力」が身につけさせることができる。 ・継続的にあそぶっくと連携し、読書習慣の確立を目指して欲しい。

【No.4】 ・共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

・共通の評価の観点

- ① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有
- ② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進
- ③ いじめに関する情報の組織的な共有

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日元気に登園してくれる子が多かったが、中には登園のいやがる子どももいた。 ・指導に一生懸命になりすぎて、つい強い口調になってしまう場面が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解をしっかりとしていき、子ども達が園での生活が楽しめるよう努める。 ・子どもに対して、適切な言葉がけができるよう、研修をしっかりとしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での安定が基本ではあるが、センターでも楽しく登園できるように配慮して取り組んで欲しい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童も保護者も学校生活では、友だちと仲良く生活していると高く評価している。 ・年2回のいじめアンケートと教育相談を行い一人一人の心配事や悩みを聞いた。いじめ等を確認した場合には早急に対応した。 ・休み時間には、全職員で教室以外の場所も含めて児童の観察に努めた。縦割り活動や給食交流会を開催するなど、異学年での交流活動も定期的に行った。 ・月1回の児童理解交流会を行い、いじめや不登校児童の情報を全職員で交流し、改善策を立てて指導にあたった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も年間2回の教育相談週間、いじめのアンケート、月1回の児童理解交流会を行う。また、子どもとじっくりと時間をかけて話し合えるように教育相談週間の期間を長くとする。 ・いじめや心配事については、丁寧な指導を心掛け、対応の結果については確実に保護者に連絡する。 ・支援を必要な子や失敗をしてしまった子に対して、温かく認めてあげられる集団づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が休み時間に職員室に戻らずに教室にいて、子どもたちの様子を観察しているのが良い。 ・給食交流会などの取り組みが良い。下の学年に対する優しい気持ちが芽生えると思う。 ・今後とも一人一人に常に目をかけていくことを忘れて取り組んでほしい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートを年間で2回実施した。 ・町の生活アンケートも実施することができた。 ・実施後には必ず一人一人との面談を行い、児童の実態把握に繋げるとともに、日常的な情報交流も大切にできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間スケジュールに沿って年2回のアンケートを実施するとともに、その後の面談を丁寧に行い、必要に応じて関係機関との連携を深めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人にしっかりと目を向けることができるのは小規模校の強みであり、子どもたちの状況を確実にとらえて指導に当たることで、いじめや不登校のない学校づくりを続けてほしい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流により定期的な状況確認を実施した。 ・生徒のアンケートおよび面談により確実に状況を把握した。 ・スクールカウンセラーと連携した。 ・保護者アンケートでは75%の肯定的回答があった。 ・取組についてのアンケート評価は高いが不登校生徒の割合がなかなか低くならない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況をきめ細かく把握しながらの対応を継続する。 ・不登校生徒の対応についてスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用を促進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生も失敗したりすることがあると思うが、生徒を子ども扱いするのではなく、真摯な対応をお願いしたい。そうすることで信頼関係がより深まると思う。
ニセコ 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見に向けて、いじめアンケート実施回数を年間4回に増やして実施した。 ・「いじめ防止標語コンクール」の全校生徒での応募や標語の掲示など生徒自身がいじめ防止について取り組んだ。 ・スクールカウンセラーによる面談や教室での生徒観察等を通して状況把握に努めた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの年4回実施とともに、クラス担任による個別面談を実施し細かいスパンの中で生徒の実態把握を進める。 ・いじめ防止標語の作成など、生徒が自ら取り組む活動を推進していきたい。 ・スクールカウンセラーや外部講師によるいじめ防止の講演会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについては、いじめる側もいじめられる側もいじめについて学校全体で考えさせることが必要である。 ・日常的に生徒と教員的意思疎通を図れば問題が大きくなる前に対応できるのではないか。

【No.5】 ・共通重点目標 外部人材の積極的活用

・共通の評価の観点

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ交流を持つことが出来、子ども達も楽しく参加出来た。新たに、高校生と野菜苗植えを行えた事で、子ども達の興味関心が高まった。 ・インターとの交流は今年も出来なかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの交流が、単発的になってしまったので、もう少しねらいを明確にして取り組んでいきたい。 ・インターとの交流は、年長組は行事が多いので、年中との交流を計画していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も交流を大切にしたい。また、インターとの連携は、早い時期にセンター側から計画を立てて行うと良い。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材については、三者ともに評価が高い。 ・インターナショナルスクールとの交流学习、国際交流員との交流、JICAの事業に参加したことで外国語や外国の文化と触れ合う機会を多く持つことができた。 ・今年度もあそぶっくの職員による読み聞かせ、役場農政課の職員による農業体験学習、役場財政課の職員による租税教室、雪崩教室を行った。農業体験学習では、稲作の学習の他に、作り手への感謝の気持ちを持つことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや農業体験などの外部人材による授業は、子どもの興味・関心も高いなど教育効果も高まっているので、次年度も引き続き継続して行っていく。 ・今後も地域の施設や外部人材を生かした特色ある教育を行い、教育効果を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターナショナルスクールや近藤小学校との交流を積極的に行っているのは良い。 ・外部人材を使って様々な取り組みを行っているので評価できる。 ・環境教育に関する取り組みも行ってもらいたい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続いて全校児童による田植え・稲刈り体験を行うことができた。 ・CSの導入を見据えて、地域素材・地域人材の確認を進めていく必要を感じている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験を通して学ぶ機会を子どもたちに与えられるよう、地域の人材活用を進めるなど環境を整えていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域との関係をより密接なものとし、地域に対し、今まで以上に教育活動への協力を呼び掛けていくべきである。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	<p>・総合的な学習の時間や特別活動、道徳等において職業観の育成や道徳心の向上等を目的に授業を実施した。</p> <p>・保護者アンケートの肯定的回答が82%を超えた。</p>	A	<p>・より内容の濃い授業を行っていくために、年間指導計画を見直しや地域のコーディネータとなる人材の育成とシステム作りを行う。</p>	A	<p>・職場体験は、実施後の生徒の挨拶や言葉遣いが良くなり、発表会でも自分の将来について真剣に考えていることが良く伝わってきた。とてもよい取組だと思う。</p> <p>・職業調べ（1年生）での講師の活用も、直接、話を聞きその人の思いを感じ取ることができるので、子どもが良い方向へ変わるきっかけになると思う。学校外でのそうした直接的な体験が重要だと感じている。</p>
ニセコ高校	<p>・性や薬物に関する講演をはじめ授業においても、地域の方々（農業関係者・ホテル・商工会関係者・専門学校・大学の出前授業等）や有識者をゲストティーチャーとして積極的に活用できた。</p>	A	<p>・今後もさらに継続した活用を進めていくと共に地域の外国人をゲストとした授業も検討していきたい。</p>	A	<p>・地元にいる多くの人材を活用し、外部講師を積極的に活用できると良い。</p> <p>・ニセコ高校は、積極的に外部講師を活用した取組を行っていると思う。これまでどおり継続実施して欲しい。</p>

【No.6】 ・共通重点目標 服務管理の徹底

・共通の評価の観点

- ① 教職員の服務規律の遵守
- ② コンプライアンスに関する研修の実施

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<p>・定期的には行えなかったが、朝の打ち合わせや職員会議で伝え、その都度情報を提供し、意識できるように取り組んだ。</p> <p>・交通違反はなかった。</p>	B	<p>・継続して情報を提供し、意識出来るように努めると共に、研修時間を取って、意識向上につなげた。</p>	A	<p>・臨時職員も多く全員揃っての研修は出来ないと思うので、その都度しっかり伝えて意識できるように取り組んで欲しい。</p>

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務に関する指導、情報提供を朝の打ち合わせや職員会議を利用して行った。 ・ 最新の通知・通達をその都度情報提供した。 ・ 4月からの11ヶ月間服務規律違反の案件はなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務に関する指導、情報提供を行って法令遵守を図り、信頼される学校づくりに努める。 ・ 定期的なコンプライアンス研修などを計画して実施していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に先生方で悪い点はないと思う。 ・ 今後も教育公務員としての自覚をもって取り組んでほしい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員全員でセーフティーラリーに参加し、通勤時だけでなく日常的な安全運転の意識を高めた。 ・ 職員会議で月別スローガンを確認し、職員室内に掲示して交通法規順守の意識向上を図るほか、職員の打合せ等での指導を繰り返し行い、不祥事根絶に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティーラリーへの参加を通して安全運転への意識を高めたり、日常的に声をかけ合ったりすることで、服務規律の保持に向けた自覚を持った行動をとれるよう職員の意識統一を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の教職員が意識を高め、学校一体となって教育活動等に取り組むことで地域と学校との信頼関係をさらに高めていってほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例を細かく取り上げ、コンプライアンスの確立に向け、ミニ研修を時期に応じてこまめに実施した。 ・ 体罰・金銭事故・個人情報の流失についてはなかったが、軽微な交通違反が2件、不適切な言葉による指導が1件、学校の物品の紛失が1件あった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽微な事故のうちに厳重な対処を行うとともに、研修を継続し日常の声かけを頻繁に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでと同じように、だれにでも失敗は起こりえるという前提で、多重のチェックによるミス防止に、今後も努めていきたい。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ルールの遵守や服務規律の厳正な保持について、朝の打ち合わせや職員会議などで継続的に服務規律の厳正保持について啓発した。 ・ 通知やリーフレットを活用した校内研修を随時実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に交通事故・違反、個人情報の管理、体罰防止金銭の取扱いについては、全体の啓発と共に、個別面談でも啓発していく。 ・ コンプライアンスについて研修を定期的に行っていく。 ・ 若年層の面談を実施していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故・違反等がなかったことは日頃の指導と先生方の心がけの現れである。今後も継続して欲しい。 ・ 継続した研修や呼びかけを行い、服務規律の保持に取り組んで欲しい。

4 ニセコ町全体としての評価のまとめ

6つの共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果を基に、共通の評価の観点により同じ視点で評価を行い、ニセコ町全体としての評価結果をまとめました。以下、共通の評価の観点ごとにまとめています。

- 【No.1】 共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

「共通の評価の観点」

① 授業改善のための校内研修の充実

各学校・幼児センターでは、子どもたちに分かりやすい授業や充実した保育を実践するために、校内研修及び公開研究授業を積極的に実施しています。今後も、校内研修の取組みを積極的に行ない、授業改善や充実した保育に活かすよう努めるとともに、これらの成果が幼児児童生徒へ還元されているか確認をしていく必要があります。

② 効果的な指導方法や指導形態の工夫

ICT機器の活用、ノートづくりの指導、学習規律の徹底など、授業の改善を実施しています。加配教員や退職人材等活用事業による非常勤講師の配置により、チームティーチングや習熟度別学習などきめ細やかな学習指導は、保護者・学校関係者評価でも非常に高い評価を得ています。今後も子どもの主体的な学び合いによるアクティブラーニングの導入等、楽しい・わかる授業づくりを進める必要があります。

③ 教育課程改善に向けての取組

各学校において、研修などの成果の活用を図りながら、教育課程の改善に向けて進めています。平成28年度は小中一貫教育やコミュニティ・スクール導入に向けた制度設計を進めることとしており、学習内容の連続性や地域との連携を踏まえた教育課程についてさらに検討が必要です。

ノート指導・黒板の書き方など統一の検討

④ 児童生徒アンケートの結果

児童生徒のアンケートを取ることで、児童生徒の苦手な点や改善すべき点が明らかになります。各学校では児童生徒アンケートの結果を踏まえた指導方法の改善や工夫を行い、授業に対する評価が上がっています。授業改善の取組みが児童生徒自身の理解や学力向上につながっているか、継続して確認していく必要があります。

【No.2】 共通重点目標 特別支援教育の充実

「共通の評価の観点」

① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実

各学校等において、パートナーティーチャー派遣事業の活用、スクールカウンセラー訪問、保健師などと連携し、特別支援に関する校内研修に努めており、研修会の成果を特別な支援が必要な子どもたちへの支援充実に生かしています。特別支援学級だけでなく通常学級においても特別な支援を要する子どもたちには、様々なスタイルがあり、適切な指導や対応がとれるよう、幅広く研修に参加をすることができる態勢を整えていく必要があります。

② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施

個別支援計画・指導計画にあたっては、各学校等で保護者の考えや意向を踏まえて作成を行っています。特別支援学級のほか、通常学級在籍の子どもたちについて計画を作成することは、保護者及び学校間の連携を進めていくうえで必要です。近藤小学校では、個人カルテの作成・更新の取組が進められており、一人ひとりに応じた支援の体制づくりが進められています。

③ 特別支援学級への校内支援体制の充実

各学校では校内研修に加え、校外の特別支援に関する研修にも積極的に参加できる研修体制の充実に努めたり、ニセコ町教育支援委員会の特別支援活動補助を活用し、医療機関等の連携を図ったりしています。各学校等においては、校内の特別支援委員会を開催し、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援が必要な子どもたちについて、教職員全体で支援体制や支援の方法についての確認を行い、共通の指導ができるようにしています。

④ 特別支援教育への保護者理解・児童生徒相互理解

ニセコ町教育支援委員会では、教育支援リーフレット「子どもたちの未来を応援するために」を作成し、幼児センター・各学校の保護者に配布し、特別支援教育について理解を深めてもらっています。幼児センターでは、早期からの理解を深めてもらうため、幼児期の保護者向けの資料作成を検討します。また、保護者どおしでの理解や地域で子どもたちが過ごす場（放課後子ども教室やあそぶっく）での理解も重要なことから、個人情報に配慮したうえで、適切な情報の共有が必要です。

【No.3】 共通重点目標 読書活動の推進

「共通の評価の観点」

① 朝読書（一斉読書）の取組状況

小中学校においては朝読書を定期的実施しており、各学校等の取組として定着しています。この他、ニセコ小学校では給食の前後の空き時間などスキマ時間を活用した読書を行ったり、幼児センターでは絵本の読み聞かせを毎日行ったりしています。今後もこの取り組みを継続していくことで、読書への興味・感心を高めていきます。

② 図書館利用、読書活動の状況

小中学校では、朝読書、読書イベントなどを通して図書室の利用を促しており、小学生の読書に対する意識は高くなっています。しかし、中学生では読書をする生徒が目標に達していないほか、高校でも図書室の利用が限られた生徒になっており、年齢が上がるにつれて読書離れが見られます。学校図書室支援員によるサポートを活用しながら、読書活動の充実と図書室の整備を進めていく必要があります。

③ 「あそぶっく」との連携

学校図書活動においてあそぶっくの存在はたいへん大きなものとなっています。高校においても、あそぶっくの協力により「立ち寄り図書館」を設置し、生徒が本に興味を持つきっかけづくりを行っています。

また、あそぶっくを教職員が授業に向けた資料収集等のため活用する場面も増えており、今後もこうした連携が進むことが期待されます。

【No.4】 共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

「共通の評価の観点」

① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有

各学校において、児童生徒に対していじめに関するアンケートを実施し、アンケートの結果によって児童生徒と教員が個別に教育相談による対応を行っています。把握した情報は校内で情報共有を行い、学校全体で児童生徒を見守る態勢をとったり、スクールカウンセラーとの連携により、保護者・児童生徒との交流・面談を実施しています。

② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進

各学校等においては、子どもたちの交流活動が様々行われており、子どもたち同士がお互いを理解したり、信頼関係を築いたり、コミュニケーション能力を育成したりする良い機会であると捉えています。ニセコ高校においては、いじめ標語の募集など生徒自らのいじめ防止の取り組みも行われている。

また、学校外での子ども活動について、子どもが安心して過ごすことができる場を確保するという観点に立ったうえで、学校と連携し情報共有をしていくことが大切です。

③ いじめに関する情報の組織的な共有

各学校においては、定期的な教育相談やアンケートなどが行われており、これらの結果を全職員で共有するなど、組織的な対応に努めている。

また、学校だけの対応が難しいケースについては、児童相談所との連携やスクールソーシャルワーカーの活用などを行っていく必要があります。

【No.5】 共通重点目標 外部人材の積極的活用

「共通の評価の観点」

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

本年度も各学校等において、町内の外部人材による様々な体験学習や講演、学習活動が実施され、主な各学校等の取組は、次のとおりです。

【幼児センター】

観劇、クラシックコンサート、虫歯予防教室、ファイターズ野球教室、寿大学交流会、消防による防火映画上映

【ニセコ小学校】

インターナショナルスクールとの交流学习、農業体験学習、消防による避難訓練、国際交流員との交流会、ブックフェスティバル、JICA訪問団受入れ、ケータイ教室、雪崩教室、租税学習

【近藤小学校】

交通安全青空教室、消防による避難訓練、稲作体験、水泳学習、ふれあい交流会、ケータイ教室、雪崩学習

【ニセコ中学校】

アスリート訪問（陸上競技・元Jリーグ選手による「夢と目標」）、まちづくり（自治創生）学習、観光学習、町内企業への職業体験学習、国際交流員との交流学习、雪崩学習

【ニセコ高等学校】

ホテルサービス体験学習、薬物乱用防止教室、農業改良普及センターによる土壌分析授業、保健講話、着こなし講座、大学・専門学校・塾の講師による進路・生徒指導学習、雪崩学習、模擬選挙、観光出前授業、4年生観光リゾートコース事前研修

以上のとおり、外部人材を活用した様々な取組を実施しており、児童生徒や保護者からの評価も高くなっています。今後も地域の人材を活かした教育活動を進めていく必要があります。

【No.6】 共通重点目標 服務管理の徹底

「共通の評価の観点」

① 教職員の服務規律の遵守

学校等の職員の服務規律の意識は、これまでの研修等の取り組みにより、高まってきました。しかし、一部では学校職員の交通違反等が発生していることから、今後も服務規律をはじめ、社会的な規律の遵守についても、働きかけを継続していく必要があります。学校関係者評価でも、学校の信頼を高めるため、また教育公務員として、服務規律の遵守の徹底が求められていることから、研修の継続実施により意識の向上を図っていく必要があります。

② コンプライアンスに関する研修の実施

教育公務員として、コンプライアンス（法令順守）は仕事を進めるうえで当然のことであり、変化する社会情勢の中で、職員一人一人が法令等をしっかりと理解し、教員個人ではなく学校として業務を遂行していかなければなりません。今後も研修に継続して取り組むとともに、日ごろから職員相互で声掛けができる職場づくりを勧めることが必要です。

5 今後の取組について

ニセコ町教育委員会では、目標や課題を共有し、地域が一体となって子供たちを育む“地域と共にある学校づくり”に向けて、地域住民が学校運営に参画するコミュニティ・スクールの導入や幼児センターから高校まで連続性のある一貫した教育内容及び教育指導を行う一貫教育について検討を行っています。

学校評価については、既に学校の垣根を越えて、子どもたちの成長に関して同じ目線で考え、その成長と課題を全体で確認する場として取り組んでいます。今後は、これらの新しい取組みの中で位置づけた上で学校評価を進めることで、「ニセコスタイルの教育」の確立・推進を目指していきます。

また、取組状況や成果報告に数値目標と数値結果を盛り込むなど、より充実した評価方法の検討を行い、さらに深みを増した学校評価の取組を進めていきます。

◎ ニセコ町学校評価委員会 構成委員

区 分	職 名	氏 名
ニセコ小学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 委員長)	新井 融
ニセコ中学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 副委員長)	渡邊 均
近藤小学校	校 長	小中 憲雄
ニセコ高等学校	校 長	田邊 裕二
幼児センター	園 長	酒井 葉子
ニセコ町PTA連合会	副会長	山野 美昭
地域住民等	NPO法人あそぶっくの会事務局長	矢島 誠
事務局	教育長	菊地 博
事務局	学校教育課長	加藤 紀孝
事務局	学校教育係長	淵野 伸隆
事務局	学校教育係主事	深澤 華代

(任期 平成27年4月1日～平成28年3月31日)